



友人の母に

ゆっくり出し挿れ

1

優斗



友人の母に  
ゆづくり  
出し挿れ 1

優斗

**禁断の初体験**

---



ねえ隆男たかお…

ちよつと  
ドア開けてくれる？



今日ね  
おいしいケーキ屋さん  
近くにできたのよ…

ぜひあなた達に  
食べて欲しいと思って  
買ってきたの！



はい雄太君ゆうた…  
これからも隆男の  
いい友達でいてね…



いいから  
いいから…

あ  
おかまいなく…

母さん…  
いいってそんなの…



今日の晩ご飯  
すき焼きなの一緒に  
食べましょうね……

いいのよ  
気にしないで……



あはい……

こっちの方こそいつも  
お邪魔しちゃって……



どうぞどうぞ  
召し上がれ……

じゃ勉強  
頑張ってるね……



はい……じゃあ  
コレいただきます



若い義母だから  
母親に見えないだろ…

この前なんて  
買い物付き合ったら  
カップルに間違われ  
たんだぜ……

なんか悪いな  
来るたびに  
晩飯まで…



気にすんなって…

オヤジが長期の単身赴任で  
いつも二人きりなんだ…  
来客は大歓迎さ……

それより俺…  
アパートでの  
一人暮らしに慣れて  
いたんだけど…

たまたま実家の近くの  
大学だろ？  
速攻で却下だよ…

やっぱ実家暮らしが  
最高だって……



——実際…  
アパートの一人暮らし  
してみたら分かるって…

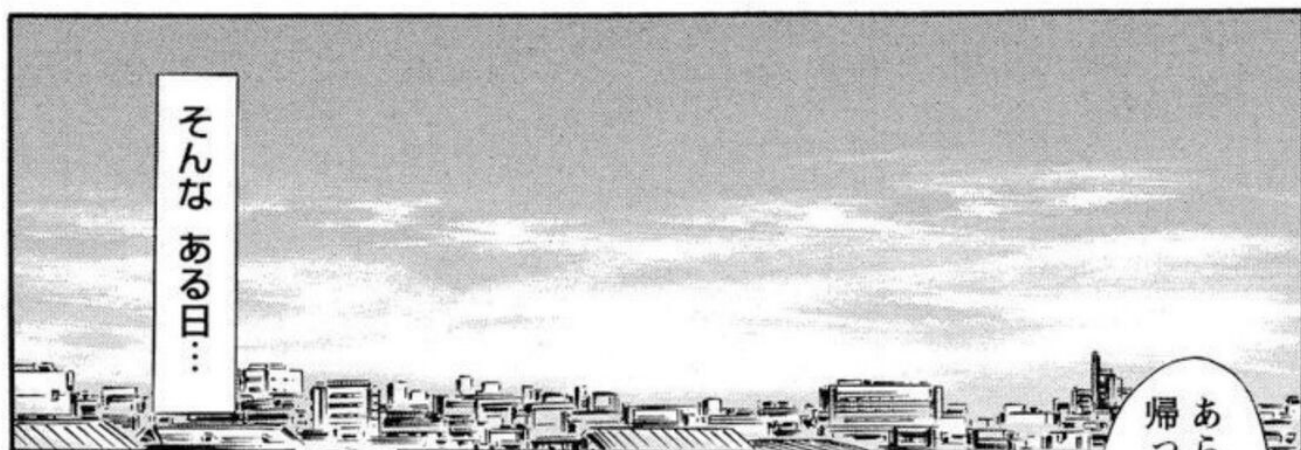
上京して半年  
まだまだ慣れない  
一人暮らし……



友人の実家でのひと時が  
故郷を思い出させ…  
俺にとつてのオアシスに  
なっていた

なんか…  
実感ももってんなア…

そりやそうさ…



そんなある日…



あら…隆男はまだ  
帰って来てないの？

あらそう…  
仕方ない子ね

ちよつと遅れるって  
言ってたんですけど  
……



あのなア〜  
どこにいるんだよ？  
もう夕方だぞ…



今日久々のデートでさア  
盛り上がっちゃって  
ラブホに一泊するから…

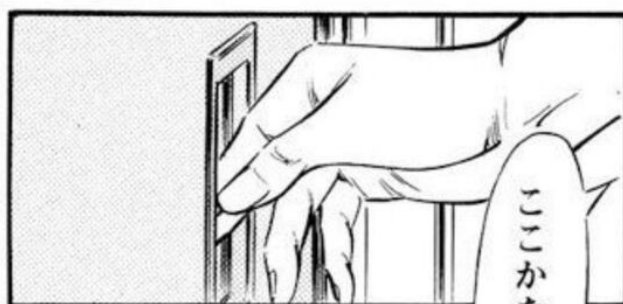
ははおや  
義母には  
適当にごまかし  
といてくれないか？  
じゃよろしくな！



適当にとって…



ちよつ…



ここかな…？

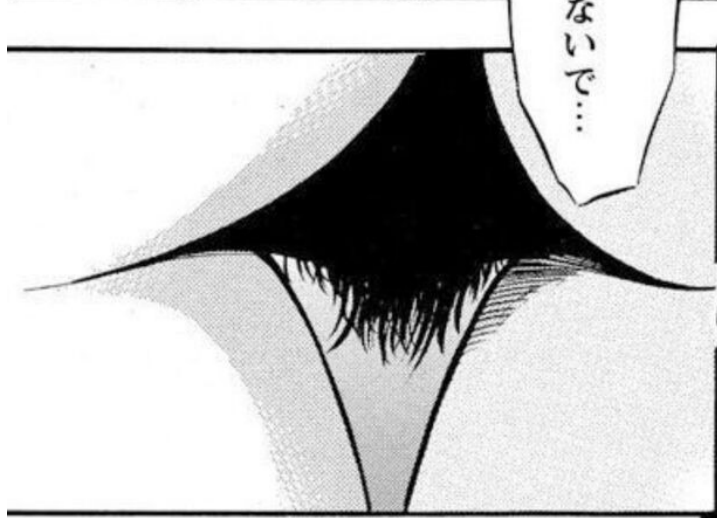


買い物でも  
行ったのかな…？



あのオク俺  
そろそろ帰ります  
けど…

どこですかア…？





俺…前から  
奥さんのこと…

雄太君…ダメよ…  
隆男が  
帰って来たら…



あつ…



どうしたの…?  
手に凄い汗かいてる…

そう…あの子…  
そんな彼女が  
いたんだ…



え？ラブホ…



隆男は…彼女と…今夜  
ラブホに泊まるって…



—え…



フフ…じゃあさ  
雄太君も一泊しちゃう？

はい…



オ…俺…女性に  
こんなことするの  
初めてなんです

雄太君って  
まだ童貞だったの…



あい…いえ  
やめたくないです!

ややっぱり…  
いいんですか  
こんなこと…

あらじゃあ…

やめる?  
残念ねえ…



今夜雄太君の「筆おろし」  
しましょうか?  
まずは一緒に  
お風呂に入りましょ



じゃあ…  
初フェラチオして  
あげるわね…



夫のよりいいわア  
反り具合もカリの大きさも  
入れたら気持ちよさそうよ…

フフ…若い男の子って  
こんなにもパンパンに  
なっちゃうのね…



んっ

んんっ…





素晴らしいわア  
うまいわよ…

あっ



あっ…もつと  
クリトリスを集中的に  
強めに舐めて…

その方が好き  
なの…

はっ



そこもつと  
ねちつくく舐めてエ…

はああんっ…

はっ…あんっ…  
凄く感じちゃう…



あっ…

もう勃起してるの？  
さっそく  
早速入れてみよっか…



うっ…

そう…そのまま…  
ゆっくり入れて…

ペニスの先を  
アソコの入り口に  
あてて…

あっ ああっ…



ああっ…  
女性の中ってこんなに  
温かいんですか…

そうよ…もっと  
奥まで入れてみて…



一人の女になったのよ  
「静恵」って名前  
呼んで……

雄太君の  
奥まで届いてる…  
全部入ったのね

もうあなたにとって  
私は「友人のお母さん」  
じゃなくて……

あああつ…



あはい…

じゃあ今度は…  
ゆっくり出し入れ  
してみても…



あうっ…

この感触 言葉に  
できませんよ…

はっ

静恵さんの  
ヒダヒダが  
絡み付いてきて…

あっ

あつ…雄太君の  
大きな力りが…  
凄くいいの……

そう 徐々に速く  
奥まで突いて…

ああっ…雄太君…  
もう立派な男性よ…

もっと激しくガンガン  
突いていいのよ…  
あああっ……

はっ ああっ…

凄い乳首  
立ってますよ…

だって…

その おねだりする顔  
可愛いですよ…  
静恵さん……

もう 雄太君ったら…

その おねだり  
叶えちゃおうかな…

——え？  
どうやって…？

あっ…

あつもっと触って  
クリクリして…  
SEXしながら  
乳首を責められるのも  
好きなの……

あぐっ…

はっ

ああっ…  
コレいいわア~~~~

最高よ 雄太君…

静恵さん…  
また出ちやいそう  
ですよオ……

このまま中で出してエ  
大丈夫だから…  
一緒にイキたいの〜

ああっ…  
静恵さん 出る…

雄太君…  
来てエエエ〜



イクッ…

あっ…

ああああんっ…



だから…あのく

もう一回しても  
いいですか…?

もく 元気ねえー  
嬉しくなっちゃう




はいもう…  
最高でしたよ…

どうだった?  
初体験…



分かってます

いい?  
このことは  
二人だけの秘密よ



友人の母に  
ゆっくり出し挿れ  
【分冊版】

1

© 優斗 / 大都社 / 秋水社